

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000084		
法人名	医療法人 金子病院		
事業所名	グループホーム 合歡の木(Aユニット)		
所在地	柳川市久々原44番地2		
自己評価作成日	平成30年2月5日	評価結果確定日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は2ユニットで、フロアの天井は高く、明るい雰囲気です。季節を感じていただけるよう展示物に工夫をしています。近隣の保育園児の訪問、中学生の職場体験受入れ、週1回のボランティアや年に1回の秋祭り開催等で、地域との交流を深めています。ご利用者には『その人らしさ』を大切に支援、お一人おひとりの希望や思いを尊重し、可能な限り実現できるよう努力しているところです。医療面においては、母体である隣接する病院と24時間体制で連携をとっており、ご利用者やご家族が安心して過ごしていただけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共有空間の間仕切りの活用で、ユニット毎の生活にまとまりができ、入居者間の会話が多くなり、個々に適したレクリエーションが支援しやすくなっている。「たばこを吸いたい、散歩したい」、「家に帰りたい」などの入居者の思いを十分に理解しながら、ユニット毎の定例ミーティングでは、ケア手順などを詳細に話し合い、母体医療機関との連携で適切な医療が支援され、理念の「その人らしい暮らしづくり」を実践している。民生委員など地域代表の参加で定期的に行われている運営推進会議では円グラフで入居者の状況を報告し、今月は会議後に避難訓練を予定している。昨年初めて開催した秋祭りには、家族や地域の方が20名ほど参加し、入居者や職員が歌や踊りを披露して大いに盛り上がるなど、地域交流を促進しながら、さらなる理念の具現化を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **GH 合歓の木 Aユニット**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に唱和し理念の共有をしている。その時々でゆったりした雰囲気ができない時もあるが介護の仕方や利用者の能力が発揮できるよう話し合いながら支援している。	理念の唱和が継続され、共有空間の間仕切りの活用で、其々ユニットの生活にまとまりができています。入居者間の会話が多くなり、体操やカラオケなど個々に適したレクリエーションが支援しやすくなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の団体や組織などに所属する機会や日常的な交流はあまりないが保育園との交流はオープン当初より続いている。本年度は、地域の方や家族の方に声をかけ秋祭りを開催し盛り上がった。週一回の介護予防ポイントも続けられている。	七夕には保育園児との交流が継続し、昨年初めて開催した秋祭りには、家族や地域の方が20名ほど参加している。入居者や職員は歌や踊を披露し、大いに盛り上がっている。日頃は近隣の方から入居できないかとの相談を受けることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーに対してのみしか機会がなくその活動は低調している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては入居者の状況、行事の実施状況など施設の運営状況を説明し理解をいただいている。	家族の参加は少ないが、自治会や老人会などの代表、民生委員、市担当者の参加で、定期的に開催され、議事録は玄関に公表している。入居者の身体や介護状況は円グラフで報告しているが、参加者から質問を受けて詳細に説明している。今月は会議後に避難訓練を予定している。	秋祭りでは作成したチラシの配布やポスターの掲示が功を奏していることから、ホーム便りの作成で、家族に運営推進会議内容の報告、会議への理解や協力の呼びかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターなどから空きの状況の問い合わせがあったりしている。運営推進会議において施設の状況を説明している。	市主催の徘徊ネットワークに参加したり、介護予防ポイント制度利用者1名を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営母体である病院における身体拘束廃止勉強会の資料を紹介し身体拘束しないケアに取り組んでいる。また、施設内でも勉強会を開き身体的な拘束や言葉の拘束など学び拘束しないケアに取り組んでいる。	隣接する医療法人だけでなく、外部の身体拘束に関する研修会に参加し、入浴を拒否する事例をグループワークしている。言葉遣いだけでなく、声の大きさやトーンも留意している。現在は外出傾向のある入居者はなく、玄関は手動で開閉できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人外への勉強会や行った職員より学んだことを全職員へ報告し一緒に学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者の権利擁護制度、成年後見制度について勉強会を開き職員が学ぶ機会を設けている。	以前日常生活自立支援事業利用の入居者もあり、昨年は成年後見制度に関する研修会に参加するなど、事業や制度の内容やその違いを理解している。制度活用を市に相談した入居者もあるが、親族の事情で活用に至っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、説明を行い不安な点や疑問点があれば説明し理解したうえで契約している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に対しては公的な窓口を紹介するとともに、施設における苦情窓口を明示している。また、家族の面会時などにコミュニケーションを多くとり意見など出た場合は施設運営に反映できるよう努めている。	家族が来所される折に、入居者の状況を随時報告し、意見を伺っている。中には、毎日来所される家族もあるが、具体的な意見はない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や職員ミーティング時、日頃の職員との会話の中で意見が出た場合は管理者が代表者へ相談したりして意見の反映ができるよう努めている。	ユニット毎のミーティングを毎月開催し、主に入居者のケア手順などを詳細に話し合っているが、今後は全体会議も予定している。立ち上がりができにくくなったソファの買い替えを見積もり書とともに、法人に申請している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から定期的にまた必要の都度報告を受けることにより、事業所の現状及び問題点を把握してその対策に当たっている。また、職員が働きやすいよう労働時間の工夫をやりがいをもって働けるよう努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	各ユニットにリーダーを配置したり勉強会への参加を促したりして意欲の向上に努めている。休みの取得もお互い協力しながらとることができている。	20～60歳代の年齢や経験に幅のある男性1名を含む職員が就労し、外国籍の職員の面接や採用には管理者2名が関わっている。一旦離職したものの、少人数のケアが魅力と再就職した職員もある。外部研修の参加を推奨したり、今月は外部講師を招聘し、コミュニケーションについて学習予定である。休憩室が設置され、昼休みや公休、年休も取得できている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の言動や行動で気づいた点はその都度注意したりユニット会議時に話をしたりして啓発に取り組んでいる。	日頃から言葉遣いについて留意し、その場で注意を促すようにしている。高齢者虐待防止や身体拘束防止に関してミーティングなどで話し合い、外部研修にも参加している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修があるときは職員へ声掛けし参加を促している。本年度は、資格取得ができるよう勤務の調整など職員をサポートすることができた。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	個人的なつながりや法人内でのつながりはあるがその他のつながりは、不活発である。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設などから、状態報告書を提供してもらったり施設からの聞き取り、家族からの意見を聞き不安なく入居できるよう努めている。入居時には声掛けを行い安心して生活が送れるよう支援している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時などでも家族から困っていることや不安なことの相談にのりながら家族の不安などが少しでも和らぐよう傾聴に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前施設や家族からの話に耳を傾け職員と情報を共有しどのような支援をしていくか検討し本人に必要なケアができるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話はもちろん、笑顔を大事にし、できることを引き出し家事の手伝いなど一緒に行うよう心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況の変化や生活の様子を家族へ報告しその後のケアの方法や生活の意向を聞き、本人を共に支えあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望にて、かかりつけの病院や歯科に行っている。入居者の教え子の方の来訪もあったりした。	近隣の知人が来訪されたり、家族と医療機関受診や地域祭りの見学に外出したり、地域の方から敬老会の記念品を受け取る入居者もある。今月は伴侶の納骨に外出予定の入居者もあり、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関われるようテーブルをくっつけみんなで楽しく過ごせるようにしている。性格上、関りが難しい方に対しては職員が間に入り支援しているがやや苦慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は、お見舞いに行き本人と話をしたり家族にお会いした際は、相談にのったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を聞きできるだけ希望に応えられるよう努めているが、本人の身体上の安全面を考え希望に応えられない時もあるが、好きな食べ物や性格など考慮し快適に過ごせるよう支援している。	担当職員が居室の清掃や衣類の整理などに関わり、モニタリングを実施している。「たばこを吸いたい、散歩したい」、「家に帰りたい」などの個々の思いを十分に理解しながら、その人らしい暮らしづくりを支援している。	入居者個々のライフステージに応じた暮らしづくりを支援するためにも、認知力に関するアセスメント項目の追加で、さらなる意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りや、本人からの話を聞きどんな暮らしをしてきたのかなじみのもの等、入居後の会話の中でも把握できるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックにて健康状態を把握している。1日の過ごし方を毎日記録に残し、現状の把握や、変化に気づけるよう職員がいつでも確認できるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族からの要望を聞いたり、毎月のユニット会議にて状態の把握や今後の介護方向について話し合いプランの作成に努めている。	ユニット会議で個々の入居者の気づきやモニタリング結果を話し合い、介護計画の見直しをしている。ショートステイを利用しているつもりで「家に帰りたい」と再三訴えていた入居者の言動が、思いに寄り添った対応で時間の経過とともに変化している。	少しずつ変化する入居者の意向を家族に理解していただくために、入居者の言葉をそのまま記載したり、主な生活上の活動にケア内容の記載をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護・看護記録は職員誰もがいつでも記入できるようにしており職員間と情報を共有し、その人らしいプラン作成ができるよう努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見を聞きながら利用者が過ごしやすいよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方や保育園との交流を図ったり、中学校の職場体験の受け入れをし、交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する医療機関に昔から受診している方がほとんどである。家族や本人の希望にて他科へ受診希望の場合は、紹介状を持参し可能な場合は、家族が同行し無理な場合は、こちらで付き添っている。	現在、母体医療機関が全入居者のかかりつけ医である。院長が週1回以上不定期に来所し、入居者に声をかけて、体調を確認している。体調不良の場合は、外来などに連絡し受診を介助している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師や隣接する病院の看護師に相談し適切な処置や治療が受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、お見舞いに行き話をしたりして状態の把握に努め、退院時にも病院関係者と連絡を取り合い情報交換に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応や終末期ケア対応指針を整備し、同意書を交わしている。重篤化した場合は家族や本人の意向を踏まえながら主治医や関係者と話し合い連携をとりながら支援している。	重度化対応及び終末期ケア対応指針を整備し、入居時に同意を得ているが、ここ数年はグループホームでの看取りはない。今年の1月下旬のむくみのため、隣接する医療機関に入院された98歳の入居者は、肺炎のため急逝されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成しており、応急手当や初期対応ができるようにしているが、介護職として行なえる医療行為の教育訓練はやや不十分である。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な年2回の防火訓練では地元の消防署の協力のもと夜間想定訓練を行うことができた。災害時の非常食も確保できている。	昨年9月、消防署の指導を受け、夜間想定避難訓練を実施している。夜勤者の1名は通報や初期消火、他1名は入居者の避難誘導や職員に連絡するなど、役割を分担している。今月の運営推進会議日にも訓練予定で、会議に参加された地域の方々にもどのような協力をお願いするか検討予定である。	昨今の局地型自然災害の現状から、さらなる災害対策として、備蓄台帳の整備を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人に合わせた声掛けを行い、本人の意向に合わせ支援している。また、入浴時や排泄時などのプライバシーの配慮に気を付けている。	トーンの柔らかいご当地弁でのやり取りで和む場面も多い。調査時、声を荒げる入居者に職員がとりなす場面もあったが、個々の人格を尊重する対応がなされていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに気づけるよう同じ目線にたち、本人が希望を表せるよう雰囲気づくりをしながら自己決定ができるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞いたりし、その人らしく日々の暮らしができるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を切ってほしいと訴えのある利用者に対し、スタッフが対応しその人の要望に応じながら身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者1人1人がおいしく食事ができるよう嚥下や、咀嚼に応じて刻みやミキサーにかけたリロミをつけ対応している。	ミキサー食などを用意したり、具材も小さく切られ食感も残しながら食べやすく工夫している。お正月は餅ではなく団子入りの雑煮や黒豆、なますなどのおせち料理で祝っている。食べ遊びをする入居者には食器を全て下げず、気が済むまで一皿残している。自然にお皿やテーブル拭きをする入居者もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の意向を確認しながら希望時には、量の調整を行っている。水分摂取量を毎日記録し1人1人の状態を把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し清潔に保てるようケアしている。義歯が合わないという利用者には、歯科往診を利用し口腔の状態が良好に保つよう支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツの使用時間を減らし、日中はトイレで排泄ができるよう時間を見て誘導したり自己にて行かれる方は、陰部の清潔に努めている。	トイレでの排泄を基本としている。入居当初食事を食べなかった入居者が食べられるようになり、トイレで排泄できるようになっている。トイレで排泄時、尿取りパットの交換や陰部洗浄をさりげなく支援し、尿路感染を防止している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の量や食事以外での水分摂取の量に気がけている。便秘がちの人には、主治医と相談しながら薬を使用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を実施している。その方に応じた、タイミングや希望に合わせて温度の調節も行っている。	洗い場が使い易い片方のユニットの浴室で、週2回の入浴を職員2名(各ユニットから1名)で支援している。職員によっては入浴を拒否するストーマの入居者もあり、職員が交代して声かけしている。一番に入浴していた入居者が、自ら「(一番を)変わろうか」との声かけもあった。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべくフロアーにて過ごしていただき体操や、レクリエーションに参加し体を動かし安眠できるよう努めている。利用者の状況によっては静養をすすめ温度調節も気がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『服薬一覧』を作成し、服薬の種類や、効能について周知している。症状に応じて、薬の変更がある場合は職員に伝達しその後の様子観察も行い支援している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔かなじみのある歌を一緒に歌ったり、おやつをみんなで作ったりして楽しみごとを作っている。1人1人に応じた対応ができる場の設定に苦慮している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候やその時々状況によって近くに散歩に出かけたりしている。健康上の問題や職員の人員配置などによりなかなか出かけられない状況の時もある。家族と外出される利用者もいる。	隣接する医療法人デイケアの車両を借りて、季節毎に梅や桜、ひまわりの花見、さげもんの見学に出かけている。高齢で外出がままならない入居者もあるが、ウッドデッキに出て四季折々の外気に触れてもらえるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては金銭の保管には注意しているが現実には所持するのは難しくこちらで預かっており、家族と連携をとり必要なものを職員が買っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には、施設の電話を使用したり、携帯を持ち込まれている方には時間を決めて手渡し家族に電話したりされている。手紙や年賀状を知人に送られる利用者もありその都度対応、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、塗り絵や折り紙作成をし飾りつけをすることによって季節感をだしている。ウッドデッキ側からは光りがさしフロア全体は明るい空間作りができている。	ゆったりとした玄関や共用空間の間仕切りには季節の飾りつけがなされ、空調や採光を管理し、グループホームらしい環境づくりをしている。窓際には大型テレビやソファが設置され、畳の間で昼寝をする入居者もある。体操やカラオケ、塗り絵など、入居者は好みのアクティビティを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士、ウッドデッキ側にて話をしたりソファに座りテレビを見たり各々が思い思いに過ごせるよう支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が希望する家具などはなるべく希望をかなえている。また、その人に応じたベットや家具の配置も行い居心地よく過ごせるよう支援している。	居室のドアは職員のお手製の飾りと表札が掲示され、筆筒やテレビを持ち込んでいる居室もある。中には自宅で使用していたポータブルトイレをベット傍に置いた居室もあり、馴染みの配置を大切にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の歩行や車いすを自己にて駆動される方が動きやすいよう空間を広くとったり手すりの設置もある為、安全に生活ができるべく自己にて行えるよう支援している。		